

第 31 回 夕張川流域会議 議事要旨

日時： 平成 28 年 7 月 20 日（水） 9:30~13:30

場所： 現地視察 夕張川長沼頭首工下流左岸

意見交換 栗山町ふれあいプラザ

<要旨>

夕張川長沼頭首工下流左岸の河原で、NPO 雨煙別学校が由仁小学校 4 年生約 30 名にボート操船や、川流れなどを指導しているところを現地視察したほか、委員が運営スタッフと一緒に夕張川に入って、こども達の安全管理や、ボートの後片付けなどを行いました。

意見交換では、委員から川の学習会に関する感想のほか、河道内樹林化、ダム放流、魚がのぼりやすい川づくりなどへの意見がありました。



<主な意見>

(川の学習会について)

- ・川に入ってみて、水位が膝の高さを越えると歩きにくいことがわかった。
- ・場所によっては泥が溜まっていたり、ヤナギが繁茂したりして、毎年様子が変わることがわかった。
- ・子どもたちは水に入るのが好きなのだと、感じた。川に入れば、そこに生き物がいるということもわかるので、これからも川は学習の場として期待される。
- ・自然と親しみ、子供たちと接する機会を持てたことが良かった。

- ・川の体験を通して川の怖さなどを知り、水の事故を防げるようになるのではないかと？川に入ったことのない子供は、川に落ちたらパニックになる。
- ・川の体験学習は安全管理が大切なので、まず、指導者が川の危険を知る必要がある。
- ・自然の川では、洪水が発生して攪乱が起きて、栄養分が海に運ばれるという機能がある。夕張川にはまだ自然が残っているので、その機能を学習会で説明していきたい。
- ・今回の現場はよく利用されている場所なので、より使い勝手が良くなるように今後とも協力していきたい。

(河道内樹林化について)

- ・今回の現場のように、流れが強いところの川底は石で、弱いところは泥がたまっている。流れが弱いところは、冠水を繰り返すたびに泥が堆積していくので、放っておけばヤナギが繁茂するようになり、礫河原が減っていく。
- ・砂州のヤナギを伐開するだけでは泥の堆積傾向は変わらないことから、2年くらいでまた樹林化すると思う。砂州を切下げたり、上流からの流向を変えるなど対策しなくてはいけない。
- ・夕張川で川の学習会を行っているが、子どもたちが安全に遊べる河原が減ってきた。生き物が生活しやすい河原がある河川は、人にとってもいい河川だと思う。今日の現地視察は、河川環境と河川利用の課題を確認する上でいい企画だったと思う。
- ・河川改修と自然再生事業を同じ場所で、同時に行うことによって、本来の多自然川づくりができるのでは？
- ・平成9年に河川法が改正され、河川管理の目的としての治水、利水に加えて環境が位置づけられた。河川環境の整備と保全を行い、バランスよく河川管理を進めていきたい。
- ・今年、現地の樹木伐開と砂州の切下げを予定している。今後の対策については相談させていただきたい。

(ダム放流について)

- ・7月だが、川の水が冷たいと感じた。ダムによる放流が影響しているのではないのか？
- ・昨年、一昨年と比べて夕張川の流量が多いように思う。今年は水位が高くてマルタウグイが産卵できなかった。今年からダムの放流や運用を変えたのだろうか？
- ・夕張川の流況や、ダムの放流と運用について、改めて説明させて欲しい。

(魚がのぼりやすい川づくりについて、支川について)

- 由仁町から栗山町の小林酒造にかけて夕張川の扇状地堆積物が分布しており、昔は礫河原と湧水豊かな、サケがのぼる河川だったと思う。しかし、今の夕張川はダムで礫の移動が止められている。ダム下流は礫の流出と河床低下のため、サケが遡上、産卵しても再生産するには厳しい環境にある。
- 河川の治水安全度に影響を与えないよう、小さな規模で、市民やNPOが砂利を入れて産卵場を造ることはできないだろうか？
- 支川の雨煙別川や阿野呂川で、礫河原を再生できないだろうか？
- 雨煙別学校付近で三川が合流しているが、合流点下流を少し拡幅して砂利堆積を促してあげれば、サケマスの産卵床や環境学習の場として利用できると思う。雨煙別学校付近まではサケをのぼらせられないだろうか？
- 雨煙別川の整備計画では、落差工を撤去するという計画のようだが、このあたりの地形、地質から考えると、必ず河床低下するので、計画を見直す必要があると思う。
- 予算的に厳しい状況にあるため、支川整備は思うように進められていないのが現状である。

第 31 回 夕張川流域会議

日 時：平成 28 年 7 月 20 日(水) 9：30～14：00

現 地 視 察：長沼頭首工下流左岸近辺

意 見 交 換：栗山町ふれあいプラザ

次 第

1. 集 合 9：30 栗山町ふれあいプラザ 東側 公共駐車場

※出 発 9：35

挨 拶．江別河川事務所長（移動車中）

概略説明．事務局（移動車中）

2. 現地視察 9：45～11：45

◇長沼首工下流左岸近辺 ・総合学習支援視察

3. 意見交換 13：00～14：00 栗山町ふれあいプラザ

1) 今回の現地視察を終えた感想等

2) 事務局より

3) 次回会議について、その他

4. 閉 会 14：00

「第31回夕張川流域会議」 委員出席者名簿

委員御氏名	所 属	備 考	出 欠
妹尾 優二	流域生態研究所長		○
野島 芳光	水土里ネット由仁(由仁土地改良区)理事長		○
諸橋 淳	おっ鳥クラブ	当日は川の学習会を運営するため、午後の意見交換を欠席	×
上野 千春	栗山オオムラサキの会		×
高橋 慎	栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会		○
久保 和英	河川愛護団体 リバーネット21ながぬま		×
千葉 光弘	夕張川なんでも探検隊		×
小針 一人	社団法人 栗山青年会議所		×
杉本 伸二	夕張川自然再生協議会		○
濱田 暁生	ふらっと南幌		×
小松 憲幸	江別市 建設部土木事務所治水課長		○
尾暮 靖志	南幌町 都市整備課 参事		○
栗野 悟	長沼町 都市整備課長		○
中川 雅博	岩見沢市 建設部建設管理課長		○
伊藤 一廣	由仁町 建設水道課長		○
佐々木 学	栗山町 建設水道課長		○
熊谷 修	夕張市 建設課長		○
糸尾 一夫	北海道札幌建設管理部 長沼出張所長		○
山崎 英志	夕張川ダム総合管理事務所長		○
岡部 啓二	江別河川事務所長		○

※敬称略

委員出席者合計＝ 14名

「夕張川流域会議」規約

(名称)

第1条 本会議を、「夕張川流域会議」（以下「流域会議」という）と称する。

(目的)

第2条 流域会議は、夕張川のあるべき姿を見据え、流域における川づくりのあり方について意見交換し、今後の川づくりに生かしていくものとする。

(組織)

第3条 流域会議は座長、副座長及び委員をもって組織する。

2 委員は、前年度委員からの引継ぎを基本とし、江別河川事務所長が委員名簿を作成する。

3 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

4 座長、副座長は委員の互選により選出する。

5 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときには、副座長がその職務を代行する。

6 流域会議の意見交換や勉強会等のテーマによっては、関係する団体や講師の招へい及びオブザーバーの参加を認める。

(議事等)

第4条 流域会議は、座長が招集する。

2 座長は、流域会議の運営、審議を総括する。

(事務局)

第5条 流域会議の事務局は、江別河川事務所調査課と夕張川ダム総合管理事務所管理課に置く。

2 事務局は、流域会議の運営に必要な事務を処理する。

(雑則)

第6条 この規約に定めるもののほか、流域会議の運営に関する必要な事項は、座長が流域会議に諮り定める。

(附則)

この規約は平成19年10月4日をもって成立適用する。

(附則)

この規約は平成23年2月17日をもって成立適用する。

(附則)

この規約は平成28年2月10日をもって成立適用する。